

《共同申請》

新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部

【ケアから社会を学ぶ、青陵マインドの涵養】

取組の概要【1ページ以内】

本取組では、新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部（以下、大学・短期大学）が中心となって、学校法人新潟青陵学園として初めて協働で行う教育改革の中期計画である。この取組を通して法人が建学時より掲げてきた『実学』の精神のより一層の具現化を図り、今後の変化の激しい社会情勢へ対応できる教育体制の基礎を固め、地域に有意な人材を安定的に輩出することを目指す。その実現のために『ケア』という現象を、他者に対する心遣い・世話をすることと同時に、他者から心遣い・世話をされるという両方を含む、より広義の概念として学び、大学・短期大学共通のディプロマポリシーとして「『**ケア**』の**こころを持った人材の育成・輩出**」を掲げ、まず初年次の導入教育で人間力＝青陵マインド（人を思いやり、人の役に立ちたいという気持を持つこと）を身につけさせる。そして学びの進行の中で、学生それぞれの目指す進路に応じた社会人として必要とされる真の力を身につけさせるため、学部・学科・コース毎に、学生自身の専門をブラッシュアップするための座学と実学（実習）プログラム（具体的には、自己発見・確認、他者理解の為の中長期インターンシップ・ボランティア等の実体験の機会、就職未内定者を対象としたトライアル雇用プログラム、高大接続授業での学生メンター制度、卒業後のキャリアフォロー等）といった複線化されたプログラムを用意し、多様な進路ニーズに応える。また本学の教育理念に即したキャリア支援を入学から卒業まで体系的に行い、職業人として社会で求められる力（問題発見・解決能力、状況判断能力等）を身につけさせ、地域に有用な人材を輩出することを目的としている。これらの実現のための目標・実施の背景・取組内容・取組体制・取組によって得られる効果は、以下のとおりである。

【取組の目標】

- 1) 就業力の基礎として、人間力＝青陵マインド（人を思いやり、人の役に立ちたいという気持をもつこと）を身につけた人材の育成
- 2) 職業人として社会で求められる力（問題発見・解決能力、状況判断能力等）の涵養

【取組を実施する背景】

- 1) 学生の働くことに対する意識・考え方の多様化への対応
- 2) 高齢化の進行が早い新潟県の地域特性から、福祉に対する興味の喚起と正しい理解を深める必要性
- 3) 学生に対して企業が強く求める能力涵養の必要性

【取組の内容】

- 1) 『ケア』から社会を学び自らを成長させるカリキュラムにより人間力の向上を図る
- 2) 「実務家・卒業生からの知見」を学ぶ座学・演習と「中長期インターンシップと段階的に専門性を高めるボランティア活動」、「高大接続授業へ学生メンターとして参加」等の実践から、職業人として求められる能力を磨く
- 3) 1年次前期向けのカリキュラムを中心に上級学生の積極的な参画を得ることで、学生同士の連携を深め、責務の自覚、協働の大切さを自らが学ぶ機会の提供や卒業年次において就職未内定者向けのトライアル雇用プログラム等を提供することで入学から卒業時までのキャリア支援を体系的に行う

【取組の体制】

事業の円滑な運営を担保する為に以下の体制で取り組む

- 1) 就業力育成委員会（仮称）と青陵キャリアディベロップセンターの設置
- 2) 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部パートナー施設・企業会の設置
- 3) 外部評価委員会の設置
- 4) 既設の学生支援体制との連携

【達成目標】

- 1) 大学・短期大学全体として就業力を高め、卒業生数と進路確定者数が真の100%に近づくことを目指す
- 2) 就職先事業所が求める能力評価指数を、大学は「問題発見・解決能力」「状況判断能力」「交渉能力」、短期大学は「問題発見・解決能力」「状況判断能力」で評価3.5以上を目指す
- 3) ディプロマポリシーの具現化のために、インターンシップ・ボランティアについて大学、短期大学ともに全学生の参加を目指す

《共同申請》

豊橋創造大学、豊橋創造大学短期大学部

【「持続型職業人」SOZOプロジェクト】

取組の概要【1ページ以内】

取組主体：豊橋創造大学、豊橋創造大学短期大学部

取組名称：「持続型職業人」SOZOプロジェクト

－2年以内の早期離職防止を目指したメンタルタフネスとスキルの育成－

現状：豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科ではこれまで1学年170名程度（情報ビジネス学部70名，キャリアプランニング科100名）の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによって、職業人として必要な就業力育成を行ってきた。その結果、就職率は90%を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつある。しかし、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在し、その原因は仕事に対するストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に依拠するケースが見受けられる。これらの現状を踏まえ、社会的・職業的自立に繋がるスキルの更なる向上と共に、メンタル面の育成を強化し、早期離職防止を図ることが必要である。

目的：「持続型職業人SOZOプロジェクト」は、本学と短期大学部が共同で推進している、スキル面とメンタル面の両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトである。下記の解決策を通じて、社会的・職業的自立に繋がる学生の就業力育成を目的とする。

解決法：就業力育成のための具体的施策は以下の4点を柱として、これを推進する。

1)メンタルタフネスの育成：セルフモチベーション講座、ストレスコントロール講座、目標設定講座、などグループでの実技演習と座学を組み合わせることで学生自身の経験知を高める教育プログラムの開発・展開する。

2)実践的スキルのブラッシュアップ：学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気づき・学ぶ「創造プロジェクト」を推進する。そのプロジェクト運営を通してプロジェクトマネジメント体験やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末を活用したITリテラシーを体得させる事業を展開する。

3)上記2点を実現するためのユビキタス・キャンパスの始動：「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用。大学と学生をインタラクティブに結ぶための携帯情報端末アプリケーションの開発・運用。

4)大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開：これまで多くの卒業生を地元へ輩出した強みを生かし、卒業生の人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学部生の交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する。

財政支援期間終了後の大学における取組の展開の予定：

財政支援期間中に上記プログラムの基本的な開発を終了し、かつそれを促進するためのIT環境のベースを整える。支援終了後は効果検証と改善を継続しつつ、全学部・全学科にプログラムを実施・展開していくものとする。またこれまでに築いた、高大連携のネットワークを活かし、高校生の職業観・勤労観の育成に本プロジェクトの内容と知見を応用していくものとする。

《共同申請》

大阪音楽大学、大阪音楽大学短期大学部

【事実にもとづく日本語ライティング能力】

取組の概要

これまで、本学は、音楽の高度な専門技術と知識の修得のために、充実した実技教育のカリキュラムと豊富な音楽活動の現場体験の機会を創り出してきた。

しかし、その一方で社会人としての基礎能力である日本語の運用能力に関する教育体制・教育方法の改善・展開は、必ずしも充分であるとはいえなかった。

現在、本学では学長主導による全学的な教育改革と連動して、「音楽人としての人間力」形成を目指す教養教育の見直しとキャリア支援科目の再編成を主眼とする「音楽人としての就業力」開発のためのキャリア教育改革の計画策定が進められている。

それを受けて、教養教育部会は、これからの学生が音楽人としてもつべき「人間力と就業力」の基礎を日本語のライティング能力と考え、その開発・育成に重点を置いた教育改革の実施（大学音楽学部・短期大学部共通）を目指す。

本取組は、音楽活動の現場において体験した出来事を「事実にもとづいて正確な情報としての的確に伝えることのできる日本語ライティング能力」の開発・育成のための組織化と教育・支援プログラムの構築を試みるものである。

音楽の専門的技術と芸術的、音楽的感性を洗練させると同時に、本取組によって、音楽芸術を言葉として語り、書き、伝えることのできる表現力を修得させることで、これからの社会の創建に参画できる職業人としての学生の自己形成を支援する。

I 日本語ライティング能力の開発・育成を目指すための組織化

教養教育部会内に「日本語ライティング支援室」を設置し、専任教員と専門スタッフの配置を行う。全学的な連携体制のもとで、以下の3つのプログラムによって学生と教員に対する日本語ライティング支援とポートフォリオ作成支援を具体的に行う。

II 日本語ライティング能力の開発・育成を目指す3つのプログラム構築（開発と実施）

1 日本語ライティング・プログラム

現場体験での5W1Hを基本とした「事実を正確な情報としての的確に伝える」日本語ライティングの基礎的な実践・実習を行う。（感想文から事実の記録と報告へ）。

2 リライト・アンド・パブリッシュ・プログラム

書き直すことの重要性に気づかせる。そのために、音楽に関わる現場体験の事実にもとづいた「音楽活動ポートフォリオ」の作成、公開等による、自己表現と客観的な評価を認識できる場を創り出す。（記録・報告から社会に訴求できる自己表現へ）。

3 キャリア・デザイン・プログラム

日本語ライティング能力の応用として、キャリア相談室との協働によって、プレゼンテーション能力の向上を目指す。（自己表現からプレゼンテーション能力へ）。

III 日本語ライティング能力評価委員会とプログラム評価委員会の設置

外部委員による、日本語ライティング能力の向上に対する客観的評価を行う評価委員会を設置する。さらに本取組全体の最終的な評価を行う評価委員会を全学的に組織し、総合的な評価体制を整備する。

《共同申請》

大手前大学、大手前短期大学

【学生別コンピテンシー伸張の可視化】

取組の概要【1ページ以内】

1) 取組目的

「就職に強いリベラルアーツ型大学・短大」のモデルを目指し、本学独自の就業力であるコンピテンシー指標「CPLAT」をもとに学生を育成する。学生が身に付けたコンピテンシーの伸張度を評価し、フィードバックするために外部コラボレーター（外部評価員）を起用する。授業中および映像ポートフォリオ上で外部コラボレーターとのやり取りを通して総合的実践力を高め、就業意欲や就職活動の増強を図り、就職率を向上させることを目指す。

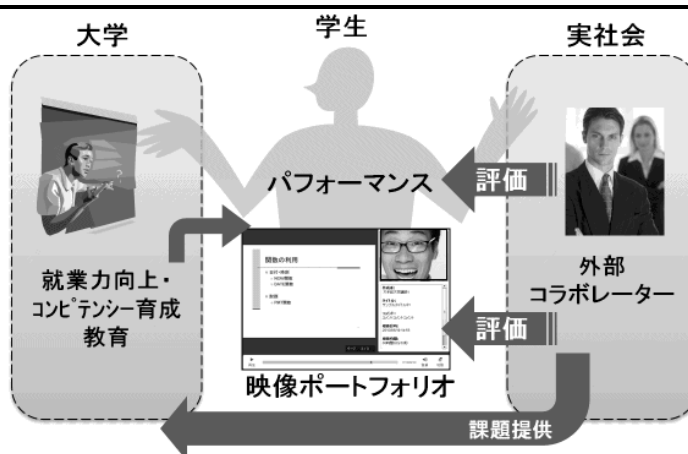


図 1.取組の全体像

2) 取組内容

取組内容は、必修科目と専門科目からなる本学のカリキュラムを再構成して行う。取組全体を以下の4フェーズに分けて推進する。

・ Competency Department 管理

全専門科目を C・P・L・A・T という5つのグループ Competency Department に分類。個々の専門科目で特に重点を置くコンピテンシー項目を指定し、専門教育を通じてその伸張を図る。全学生が履修する1～4年次必修科目はその成果を実践・応用する場として位置付ける。

・ 就業力育成教育の実施

企業や外部組織との連携を前提とする卒業までの一貫した就業力育成教育を、Project Based Learning（以下、PBL）方式により必修科目内で行う。

・ 教育効果の記録・蓄積

就業力育成の効果測定のために、学生の発表等のパフォーマンス映像を記録・蓄積する映像ポートフォリオのシステムを構築する。蓄積された映像は、学習過程の記録とあわせ、自己評価・学生相互の評価はもとより、科目担当教員および外部コラボレーターによる評価の対象とする。

・ 外部との連携

PBLを実学に結びつけるため、外部コラボレーターから課題提供を受け、学生はその研究・解決・実践の成果を授業中、およびポートフォリオ上で口頭発表して、評価を受ける。その際、本学と関係する外部諸機関と連携して、外部コラボレーターを組織化し、評価基準の策定をも含め、協力を仰ぐ。

3) 取組体制

部署・会議体ごとに実施している就業力育成のための教育・支援を一元化して、有機的な連携の維持を図るために「就業力育成プロジェクトチーム」を設置した。取組期間内に本チームを母体とし「就業力育成センター」を組織化する。